

凡そ人間の生活に必要な物資は出来得る限り多量にとし、生産せねばならぬ。それ故、鑛山の如きも採鑛方法を完全にして生産の増大を計らねばならぬのである。此點から昔の鑛山を觀察するに、遺憾ながら其採鑛設備は今日より餘程不完全であつた。是は當時に於ける科學的研究が不十分であつたからで、人智の進んでゐなかつた時代としては己むを得ないのである。然しながら當時に於ては負傷者の數は今日よりも餘程少かつたのであつて、生産組織の大仕掛になつた今日に於て負傷者の數の愈々増加することは注意すべきことである。

以上、私は昔の鑛山の一般的性質を述べた。諸君は明かに昔の坑夫の方が今日の坑夫より幸福であつたことを知つたであらう。さらば今日の鑛山と坑夫とは昔に比べてどんな差異があるであらうか。

第三章 今日 の 鑛 山

一 今日の鑛山は資本家これを私有す

徳川政府斃れ明治維新となるや、國有が共有であつた鑛山は忽ち資本家の私有となつた。三井、三菱、古河といふやうな大資本家は其巨手をのびし、忽ち日本國中の重要鑛山の所有權を握つたのである。

今日の經濟組織は資本主義經濟組織である。此組織に於ては資本家が重要な生産機關を私有する。そして生産は少數の資本家がこれを左右し眞に人間の生活に必要な物資の生産といふものは輕視せられて了ふ。また社會の階級が資本家と労働者とに分れ、貧富の懸隔が激しくなり、資本家は遊んでゐても富み労働者はいくら労働しても貧乏に追掛けられ、社會上の不安な状態が発生するのである。兎に角、資本主義經濟組織の下に於ては生産が非常に増加した利益はあつたけれども社會的不安